小中一貫教育小規模校全国連絡協議会報告

１．日　時

平成３０年１１月２４日（土）午後２時～

２．場　所

京都大原学院　校長室

３．参加者

（国立教育政策研究所）名誉所員

（廿日市市立宮島小・中学校）校長

（奈良市立田原小中学校）校長

（奈良市立田原小中学校）教頭

（奈良市立田原小中学校）教頭

（新潟県十日町市立まつのやま学園）校長

（新潟県十日町市立まつのやま学園）教頭

（京都大原学院）校長

（京都大原学院）教頭

□挨拶

小中一貫教育小規模校全国連絡協議会会長

□自己紹介

□連絡事項

・小中一貫教育小規模校全国連絡協議会の名簿について，異動などでの変更点を確認していく。

□確認事項

〇大原学院 10 周年記念式典について

・日時，会場，案内配布先スケジュール報告。

・学校紹介，ブース発表，全大会，分科会について，当日及び前日までの準備報告。

・できるだけ学院生が表に出ていく会にする。

・宮島学園，田原小中学校，まつのやま学園の参加者の宿泊については別途調整していく。

〇第４回小中一貫教育小規模校全国サミット in 大原について

・サミット開催情報の HP 掲載は東京書籍，明治図書，光村図書，教育技術，東洋館出版，教育開発研究所などに掲載及び申請中である。加えて学校図書，学校教育研究所，教育出版，日本教育新聞，農文協に追加申請する。

・　参加申し込みはJTBにしている。JTB関係では現在２９名である。これから増えて　くると

思われる。京都市内の参加者は，京都大原学院に直接電子メールで申し込みをする。
・後援申請については後援申請の許可が出たら，京都大原学院まで連絡してもらう。
・４校は３つの分科会に分散できるようにする。
・各市教育長の祝辞については，12 月 26 日（水）までにファイルを京都大原学院へ電子メールで送信する
・各学校の参加申し込みについては，別紙エクセルファイルを電子メールで送信，地域の方の参加については役職名を記入。市教委の参加についても学校名を委員会名に変えて記入して送信する。
・３校の宿泊場所については大原山荘になる。
・資料（学校，地域紹介のチラシ，パンフレットの配布）やみやげもの，特産物の販売も可能である。

〇第５回小中一貫教育小規模校全国サミット in まつのやまについて
・校内では外国語活動に特に力を入れている。
・コンセプト・キーワードとしては，①新構想まつのやま９年間　②地域の力を～まつのやまタイム～　③小中一貫の教育システム　④コミュニティスクールとして
・開催日は２０１９年１０月１２日（土）会場，まつのやま学園
・とても季節のいい時期なので，たくさんの方に来てもらいたい。アクセスや宿泊について検討中。また，前夜祭または後夜祭のどちらかの開催を考えている。
・内容は，全校授業公開・縦割り集会・全体会・ブース発表・基調講演・シンポジウムなどを考えている。
・分科会では，参会者がワークショップ形式で参加していくことを考えている。コミュニティスクールとしての取組を基本に ①学習指導部会　②家庭教育部会　③学校作り部会の３つテーマで地域の方にも入ってもらいやっていく。
・次期サミット開催地挨拶については，まつのやま学園の校長先生又，十日町市教育委員会で行う。

□協議内容
〇まつのやま学園が賛助会員（現在確認されている賛助会員は，いの町立神谷小中学校・三条市立大島中学校）から正会員になることが決定。

〇第４回小中一貫教育小規模校全国サミット in 大原について
・分科会 ABC の内容（A:交流を通して価値観を広げる取組　B:地域に根ざしたキャリア教育　C:９年間の学びをささえる学力向上に向けた指導法の工夫）について。
・共同宣言の文面は，新学習指導要領を踏まえた内容を加えて修正する。
・ブースの発表の４校は，若手教員が発表する。
・ブースの発表はポスターセッションのような形で 15 分（発表 8 分ほど，意見，質問の交流 7 分ほど）を 2 回体育館に４校がかたまって行う。４校以外でも他の学校，教育委員会，

大学などの参加があれば受け付ける。各校のプロジェクターは大原学院で準備する。

・各校のスライドショー，ビデオの映像は各ブースで昼休みに流すことは可能であり，　各校で工夫していく。

・分科会では，多様な価値観について知る機会になればいいと考える。また，３つのテーマをつなげて，関係づけて考えていくことが大切である。

□まとめ（小松先生より）

・公立学校はこれからは説明責任をしっかりと果たさなければならない。

・日本の学校はフランスの学区制度など学校制度を模倣している。こらからは自助・共助・公助の意識を大切にしていかなければいけない。

・学校評価 PDCA サイクルを活用しているが，こらからはカリキュラムマネジメントにつながるグランドデザインを描く発想をすることが大切である。

・今，グループや班で学び合うことが流行だが，一人で学びたい子もいるのではないか，　そのようなところも大切にしていきたい。

・学級でまとまることで，一人一人もよくなる，学級を微分的・積分的に見る（教育改革を微積分にする）ことも大切である。

・災害などを見ると，想定外がありうるということを覚悟しなければいけない時代である。子供が犠牲にならないように安心・安全の点検をしっかりとしないといけない。

・システムを作ればよくなるというものではない，教育の仕事は魂を入れる仕事であり，　それは教職員の大きな役割である。

・これからの学校評価は，教員同士の評価もしていかなければならない。